



INFORMATION MAGAZINE THE JOURNAL

ザ★ジャーナル!!

National Hospital Organization Okayama Medical Center

Vol.7
No.1

やさしさ便り～岡山医療センターの今

CONTENTS

地域災害拠点病院
地域医療支援病院
地域がん診療連携拠点病院
総合周産期母子医療センター

岡山医療センターの理念

人にやさしい病院

—Human Friendly Hospital—

- 1 患者さまにやさしい病院を目指します
- 2 病院で働く人にやさしい病院を目指します
- 3 地域の人にやさしい病院を目指します

- 2 センター NEWS
院長挨拶、新任職員紹介
- 4 **特集** 金川病院開設
- 6 新任職員紹介
- 9 臨床研究推進室便り
リソースナース室通信
- 10 地域医療連携室
- 11 ところが喜ぶログ
看護助産学校通信
- 12 TOPICS!
編集後記



携帯サイトを
開設しました!

表紙写真：2012.5.17
看護の日ハンドベル
撮 影：近藤 博行



新年度を迎え、岡山医療センターは東院長をはじめ副院長、統括診療部長など重責を担う職員の多くが交替しての新たな船出となりました。

これからの当院の舵取り役となるメンバーを、今号ではご紹介していきたいと思います。



院長新任の挨拶

院長 ひがし 東 りょうへい 良平

4月1日付で、前三河内弘院長の後を受けて院長を拝命しました。責任の重さを実感いたしております。

当院は平成13年に国立病院岡山医療センターとして、現在の田益の地に新築移転しました。そして平成16年に独立行政法人化し、国立病院機構岡山医療センターとして生まれ変わりました。その平成16年当時と、現在とを比較すると、経常収益、新入院患者数、手術数、患者一人当たり一日入院診療点数（いわゆる日当点）、職員数、医師数、看護師数などが軒並み、ほぼ1.5倍に増えています。逆に平均在院日数は15.7日から12.3日へと大きく約22%減少しました。これはすなわち、当院が急性期病院として医療資源を最大限に費やして密度の濃い医療を行ってきたという証だと思っています。この24年度診療報酬改定の中で、DPC病院としてII群（高診療密度病院群）に選ばれたことがそのことを裏付けています。II群となるためにはいくつかの要件を満たさなくてはなりません。

- 【1】診療密度（大学病院本院に相当するような診療密度の病院）
- 【2】医師研修の実施
- 【3】高度な医療技術の実施
- 【4】重症患者に対する診療の実施

のすべての基準を満たさなくてはなりません。DPC病院はI群の大学病院本院80施設、我々の施設のようなII群の病院90施設、そして他の1335施設がIII群と区分けがなされ、それぞれの基礎係数が設定されま

した。

こうした超急性期病院と言ってよい診療の中で、昨年度は国立病院総合医学会の開催（10月）、西棟のオープン（11月）、病院機能評価の受審（2月）などあわただしい毎日を過ごして参りました。この4月からは国立病院機構岡山市立金川病院も当院が指定管理者となって運用を始めました。

当院の使命は、2次医療圏である県南東部や岡山県のみならず、近隣県も含めた地域の皆様に満足していただける医療を提供することにあります。そのためには、我々が抱える医療資源を最大限に有効利用して患者さまのニーズに応えなければなりません。西棟が完成したことによる救急患者のスムーズな受け入れ、個室希望のニーズに応えること、新金川病院の運用に伴う後方連携の充実などが今までの当院の課題を克服する一助となっています。

本年度は、昨年のような大きな行事はありません。質の高い高度な医療を提供すると共に、当院の理念通りの、より細やかな医療サービスを提供出来ることを目標として、少しゆとりを持って土台を固め自分たちの足下を見つめ直し、患者さまと向き合える診療を心がけたいものだと思っています。



新副院長・統括診療部長からご挨拶



副院長 佐藤 利雄

平成24年度の人事異動で東新院長の下、副院長を拝命しました。

東新院長を補佐して、当院のさらなる発展に寄与出来るよう微力を尽くす所存です。

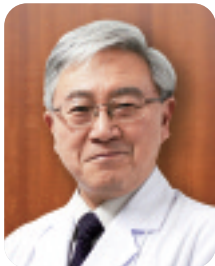
当院は、昨年度増築・増床を行ない11月に西病棟をオープンして以来救急車の受け入れが改善して来ており、また同月には地域災害拠点病院として承認され、救急・災害医療の強化を図っています。また、今年3月にはDPC対象病院の中でⅡ群（高診療密度病院群）に選定されました。急性期病院の中でも高度な医療を提供出来る施設として、今後もさらに皆様のお役に立てるよう診療に努めてまいります。

さらに、今年4月からは国立病院機構岡山市立金川病院の運営も始まり、病・診、病・病連携を今まで以上に強化して地域医療支援病院としてしっかり根付いて行きたいと考えています。

特徴ある26診療科と1000余名のスタッフを結集した総合力を発揮できる病院として、当院はこれからもさらに質の高い医療の実現を目指しています。

皆様のご協力をどうぞよろしくようお願い申し上げます。

皆様のご協力をどうぞよろしくようお願い申し上げます。



副院長 後藤 隆文

この度副院長に昇任致しました小児外科医の後藤隆文と申します。昭和54年に岡山大学を卒業し国立岡山病院小児医療センター小児科研修医として勤務して以来、国立呉病院、東京都立清瀬小児病院、米国テネシー州立大学以外の30年近くを当院で小児の診療に携わって参りました。更に、最近の2年は独立行政法人国立病院機構本部中国四国ブロック事務所医療課長として、管内23の機構病院の様々な問題に対応して参りました。

時代の推移と共に職員気質や患者気質は随分と変わって参りましたし、病院自体も大きく変化しました。幸い親方日の丸的な職員は皆無となりましたが、医療に熱い情熱を持ち闇雲に働く若い職員は減って参りました。妙に割り切って、少し醒めたクールな患者・家族の増加も時代の流れかもしれません。南方時代の古い建物から震度8にも耐える堅牢な建物への移転、電子化されたカルテ、ハード面・ソフト面でも隔世の感が致します。

地域における当院の使命はこれからも益々進歩・変化していくことと思います。当院基本方針の通り、人／職員に優しくしながら、より一層当院の使命が果たせられる様、努力して参ります。これからのどうか宜しくご指導ご鞭撻ください。

時代の推移と共に職員気質や患者気質は随分と変わって参りましたし、病院自体も大きく変化しました。幸い親方日の丸的な職員は皆無となりましたが、医療に熱い情熱を持ち闇雲に働く若い職員は減って参りました。妙に割り切って、少し醒めたクールな患者・家族の増加も時代の流れかもしれません。南方時代の古い建物から震度8にも耐える堅牢な建物への移転、電子化されたカルテ、ハード面・ソフト面でも隔世の感が致します。



統括診療部長 米井 敏郎

2012年4月より、青天の霹靂ですが統括診療部長を担当させていただきますことになりました。新任の挨拶として言うべき言葉も見つかりませんので、簡単に自己紹介をさせていただきます。医学の専門領域は、臨床腫瘍学（主として固形がんの化学療法）です。呼吸器科の医長も兼務ですので、なかでも肺がんに関しては今まで数多くの患者さんを担当してきました。医学以外の領域に関しては、情報システム管理室の室長を長年担当しています。

しかしよく勘違いされて困っているのですが、コンピュータ機器等に関する知識は乏しく、実はさっぱりわかりません。

昔はCやBASIC、Pascalなどの高級言語でSunday Programmerともいうべき趣味のprogrammingを行っており、自身のHPももっています（但し2004年以降全く更新できていませんが）。つまり、software technologyとか数学的なalgorithmの解析などには幾分長けていますが、hardwareやnetworkに関しては全くのど素人なのです。

当センターは、総合病院としてまだまだ未熟で、高度な医療を24時間、365日いつでも提供出来る体制を確立するには至っておりませんが、そのような医療が提供できるストラクチャを構築するお手伝いを、微力ですができればと思っています。

特集

金川病院開設

KANAGAWA Hospital has opened in 2012



新金川病院開院によせて

国立病院機構岡山市立金川病院 院長 大森 信彦

平成24年4月1日午前零時、ついに、国立病院機構岡山市立金川病院（以下 新金川病院）が開院いたしました。国立病院機構と地方自治体（岡山市）の初のコラボレーション（指定管理）による自治体病院の存続・再生であり、岡山医療センターにとってもこれまで体験したことのない、「1組織2病院」体制のスタートです。開院準備にあたって親身に尽力してくださった岡山市の職員の方々、岡山医療センター前院長・事務部長をはじめとする国立病院機構関係者の皆様ほか、関係各位に、この紙面を借りて衷心より御礼申し上げます。

新金川病院が立地する岡山市北区御津金川は、岡山市中心部から約25キロ北方（岡山医療センターから15キロ）、平成17年の市町村合併によって岡山市北区に編入された、人口約1万人の旧御津郡御津町にあたります。この地には多くの外国人も働く御津工業団地がある一方で、広域に過疎地域・無医地域を抱えており、全体としては岡山市の平均を大きく上回る高齢化率30%強の中山間地域です。金川は、歴史的には古墳時代から繁栄し、岡山県を南北に流れる旭川と、東西に流れて高梁につながる宇甘川の合流点にある水運・軍事の要衝であるため、戦国時代初期から中期にかけこの地を治めて隆盛を誇っていた松田氏が居城である金川城を置いていました。松田氏の先祖が現在の神奈川県小田原市あたりから備前に領地を得て根を張ったことから、「かながわ」を『金川』として縁起の良い地名としたことに起源をたどることができるようです。松田氏は、岡山医療センターのある田益、横井のあたりに支城を置き支配していたそうで、新金川病院が岡山医療センターの「支城」として「開城」したことに、「歴史的な“縁(えにし)”」を感じずにはおられません。

新金川病院は、旧金川小学校跡地に岡山市が新規に整備した病床数30床（全室個室）の病院で、一般病床15床（10：1看護基準）と亜急性期病床（15床）から構成されています。入院は、在宅復帰をゴールとしたリハビリテーション（PT2名、OT1名、ST1名配置）が必要な患者さんを主たる対象とし、外来は、内科・外科の初期診療に加え、通院リハビリテーションや緩和医療、認知症診療にも力を入れていく体制を整えています。また、同じ建物内には、岡山市の御津保健福祉ステーションも併設されており、中山間地における医療・介護連携/地域包括ケアネットワークの中心施設としての位置づけも担っていくことになります。

新金川病院のスタッフは医事や施設管理の外部委託も含めて総勢約40名。一人職場の部署も多く、職種を超えた「たすけ

あいと機転」による全員野球で、開院後の環境整備、システムづくりに取り組んでまいりました。日々改善が実感されますが、毎週開かれるリハビリカンファレンスと院長回診には、全職種が参加して、いろいろな角度から自発的・関連に意見を述べあっており、「この病院は生きている!」と感動すら覚えることがあります。医事や施設管理部門のスタッフも、どんなに疲れていても、素敵な笑顔で応えてくれます。まだスタートしたばかりで、皆が意気込んでいるためであろうと思いますが、今のスタッフの心意気が持続されるよう、院長としての目配り・気配りを心掛けねばと、自身に発破をかけ、責任の重さをかみしめている毎日です。

私たちは、新金川病院の運営方針として、

- ① 笑顔とあいさつのあふれる病院をめざします。
- ② 健全な経営を常に意識する病院をめざします。
- ③ 地域の人々との絆を大切にする病院をめざします。

を掲げました。毎朝8時20分から外来処置室に集まって立ったままで行うショートミーティングの最後に、この3つを呪文のように全員で大声で唱和して各自配置につき、8時半の始業を迎えます。当直医派遣や各部門のバックアップ体制、財務面など、すべてにおいて、まだ、“本丸”である岡山医療センターに依存している現状ですが、『自立』を座右の銘とし、各自が、「3年後には、一定の“市民権”を得る!」という気概を持って前進する所存ですので、今しばらく、温かい目で叱咤激励お願い申し上げます。また、「地域との絆」に関して最近感じますことは、通院されている地元住民の皆さんの「健康度」の高さと町内会組織の結束の固さです。通院しながら「健康度」というのは矛盾していますが、高齢なのに肌のつやがよく若々しく日焼けされている方の多いのには驚きを覚えています。まだ全体の一部分しか見えていないのだとは思いますが、この土地にしっかりと根を張った『地域生活連携』病院づくりに取り組まねばならないと、認識を新たにしました次第です。

申し上げたいことは尽きませんが、今号はここで筆をおきたいと思います。本年3月まで担当した、ザ・ジャーナルの編集後記を踏襲して、マハトマ・ガンジーのスピーチの引用で締めくくります。月並みではありますが、今後とも、新金川病院とスタッフに対し、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、一度、新金川病院にお立ち寄りいただき、その成長の過程をじかにご確認いただければありがたく存じます。

【1917年10月20日のスピーチから】

「これまでどおり、自分以外の働きに期待し続け、誰かが動けば問題は解決すると考えている限り、わたしたちは、自分たちの目的を達成して、その成果を手にする事はできない」



辞令交付



新病院が立ち上がるまで。

看護師長 河本 順子

短い準備期間と初めての紙カルテ運用・亜急性病床。
「あなたが不安な顔をすればスタッフはもっと不安よ！」
そんな言葉を言われつつ、悔しくて唇をかんだこともありました。
開院3日前に初めて全員集合。

スタッフみんなが笑顔で「あれします」「これします」「それします」とフル回転。スタッフの笑顔と言葉と行動。この時初めて「やれる」そう感じました。

新病院開院し、患者さんが入院されるようになってはや1か月。規模の小さい病院がゆえに大変なこともあります。反対に職種を超えた協力体制はとりやすく、毎週行われる院長回診は、病棟医師・看護師・栄養士・理学療法士・ソーシャルワーカー・薬剤師みんなでラウンドします。それぞれの立場で、在宅を考慮し日常生活に即したリハビリについて意見を出しあい、支援方法を検討します。患者さんも参画します。

しかし、家に帰ることを望んでいる患者さんであっても、帰れない場合があるということ。住居の問題や、独居生活・老々介護の現実を突きつけられています。これが、亜急性病床の難しさであり、現実の問題・課題であることを再認識しました。

でも、何かできる方法がある。今、金川病院は委託業者も含め職員全員がひとつになって同じ方向に進んでいます。私たちにできること「あきらめない！」みんなで前を向いて進んでいきたいと思えます！

地域の皆様に支えていただきながら、スタッフとともに成長していきたいと思えます！

今後ともお力添えをよろしくお願いいたします。



朝ミーティング



3階病棟スタッフ

金川病院開院にあたり

庶務班長 大西 芳明

この度、国立病院機構岡山市立金川病院（以下 新金川病院）庶務班長を拝命いたしました大西芳明と申します。前職の岡山医療センター地域医療連携係長時代には、院内外の皆様から温かいご厚情を賜り、誠にありがとうございました。

新金川病院開院に先立って、3月24日（土）に岡山市主催の竣工式が挙行されました。当日は、岡山市長、病院事業管理者、中国四国ブロック事務所統括部長、岡山医療センター院長、新金川病院院長、ふれあい公社、御津連合町内会長、市議会議員のご臨席のもと、山郷の肌寒い春風が吹くなか、厳かに執り行われました。その後の一般見学会も、地元住民の方の関心の高さを示すように約300名を超える方々にお越し頂きました。

当院の特徴は、一般病床と亜急性期病床を持ち、入院・通院リハビリを充実させ、医療ソーシャルワーカーが中心となって、患者さんの一日も早い在宅復帰・療養支援を行っていくことです。また、大森院長のお考えのもと、地域との交流・繋がりを持った病院がコンセプトとなっており、様々な健康教室や勉強会を企画し、地域とのふれあいを大切にしていきたいと考えています。

病院の職員数は、医師、看護師、コメディカル、事務の常勤職員に、設備、清掃の委託職員を含めても約40名余りです。実際に皆が集まり準備できたのは、3月28日頃からと本当に時間が無いものでしたが、自分達で考え、自分達の病院を良くしたいのベクトルで、一心不乱に現在まで取り組んで来ているというのが偽らざるところです。

このような状況で開院しましたが、職員が少人数ならではの良いところもあり、業務開始前に、院長をはじめ各職種が集まったの“朝ミーティング（朝礼）”を行っています。日々の問題点の確認・連絡事項伝達などを行い、最後に金川病院の運営方針“1.笑顔と挨拶、2.地域との絆、3健全な経営”を合唱します。そして、院長の“今日も一日よろしくお祈りします”の掛け声で一日をスタートさせます。

まだまだ、患者様には色々な面で行き届かないこともあるとは思いますが、病院職員全員で考え改善して行きたいと思えますので、忌憚なくご意見をお寄せください。また、他医療機関との診療連携、そして、岡山医療センター職員の方々のご協力を頂きながら、地域医療の向上に寄与できるよう努めたいと思えますので、宜しくお願い申し上げます。



— 新任職員の紹介 —



診療部長 津島 知靖

4月より、診療部長に昇任し、同時に国立病院機構本部中国四国ブロック事務所医療課長を併任することになりました。

泌尿器科の診療は、以前と同様、泌尿器科がんの診断と治療を中心にを行います。低侵襲手術である腹腔鏡下小切開手術を積極的に行っています。術後の疼痛が軽度であり、患者様に喜ばれています。また、経尿道的内視鏡手術もTURBOやTUEBといった新技術を導入し、治療成績の向上に努めています。詳細は当院のHPをご参照ください。

国立病院機構144の病院の内、中国四国ブロック内には23病院があります。ブロック事務所は安心・安全で質の高い医療の提供、健全で良好な経営、医師・薬剤師・看護師・事務職等の採用業務等々、あらゆる場面において、管内病院を支援しています。その中で医療課は管内病院に係る医療法などの許認可関係業務、政策医療ネットワークに関する業務、医療従事者の研修の実施、医療事故及び訟務に関する業務、医療統計の作成、臨床評価指標の開発及び改良などを行っています。

二足のわらじですが、業務が中途半端にならない様、全力で取り組む所存です。今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



リハビリテーション科医長 竹内 一裕

本年4月より、当院のリハビリテーション部門を担当させて頂くこととなりました。

当院リハビリは入院患者に特化したもので、患者様の機能向上および日常生活への早期復帰を目指し、入院時医療のみならず拠点病院として地域医療にも貢献することが求められています。現在4つの部門(①心臓、②脳神経、③運動器、④呼吸器)より成り、その各々分野での専門性も進んでおります。日々の診療に忙殺されるばかりでなく、発症・加療直後の早期リハビリテーションの重要性を確認するとともに、それら専門性・先進性も追及していきたいと思えます。そして、実際の診療の場に透明性ある情報をフィードバックしていく所存です。

もとより浅学菲才の身に加え、従来通り整形外科医としての職務も兼任しております。ご迷惑・ご不便をおかけすることもあろうかと思いますが、よろしくご指導お願い申し上げます。また、理学療法スタッフ(西崎医師、理学療法士8名、作業療法士2名、言語療法士2名)ともどもリハビリテーション部へのご支援をお願いしたいと思います。



— 新任外来担当医の紹介 —

新生児科 宮島 悠子

平成16年卒業。専門は新生児科・小児科。5年間、当院で小児科後期研修と新生児科で勤務し、昨年岡山大学小児科で研修後、4月から当院に戻って参りました。赤ちゃんご家族皆様が楽しく元気に暮らせるよう一生懸命頑張ります。

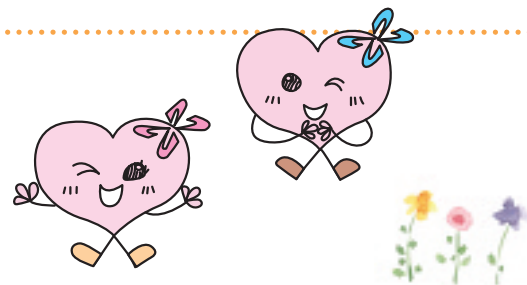
産婦人科 片山 典子

はじめまして。患者様が気兼ねなく会話できる診療を行えるよう、日々精進致します。よろしくお願い致します。

皮膚科 安原 千夏

平成18年卒業。本年4月より皮膚科で勤務させて頂いています。

不慣れな点も多くご迷惑をお掛けすることもあると思いますが、よろしくお願い致します。



— 新任職員の紹介 —



副看護部長 佳川 浩子

この度、副看護部長として浜田医療センターから参りました。2年前まで当院で看護師長として勤務しておりました。当院を離れた期間はわずか2年ですが、その間に新病棟や金川病院が開設され、さらに大きく様変わりし戸惑いの毎日です。顔を知っている職員の方々が多いたことは私にとって大きなメリットでもあり、そのメリットを生かし、調整役として役割を果たしていきたいと思っております。活気ある看護部を目指し努力してまいりますのでよろしくお願いいたします。趣味は旅行です。特に海外に出るとワクワクします。

10A病棟 看護師長 橋本 忍

小児病棟と看護学校での勤務経験を経て看護師長の仲間入りしました。6年ぶりの臨床に戸惑うこともあります。多くの方に支えられて日々過ごしています。時々気分転換をしながら仕事を頑張りたいと思っております。よろしくお願いいたします。

8A病棟 看護師長 久川 知子

このたび善通寺病院から4月に岡山医療センターに看護師長として赴任させていただき、新たな気持ちで看護に臨んでいるところです。看護師長としては1年目ですが、岡山医療センターの指針を念頭に患者様の目線に立った安全で安心な医療が提供できるように頑張っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

7A病棟 看護師長 花牟禮 正子

名古屋から岡山にやってきました花牟禮です。配属は7A病棟で、4つの診療科の混合病棟で、毎日多忙な中、皆さんの支援でなんとか船出した状況です。新たな環境に適応し、自分らしさを発揮できるように、頑張ります。

6B病棟 看護師長 津田 ひとみ

新任看護師長として、6B病棟(小児科・小児外科)に赴任しました。子供の権利を尊重し、子供の笑顔に繋がる医療・看護の提供と、スタッフが小児の専門性を高め、やりがいをもって前向きに看護に取り組める病棟にしたいと考えています。

5A病棟 看護師長 中原 孝子

分からないことばかりで、時には病棟の中で迷子になり、スタッフに助けられながら日々頑張っています。5A病棟に来られたら、気軽に声をかけていろいろ教えてください。よろしくお願いいたします。

5B病棟 看護師長 河田 映子

4月1日付けで国立病院機構福山医療センターから転勤して参りました。どうぞよろしくお願いいたします。8年ぶりに岡山医療センターに戻り、巨大化した病院に驚いています。



— 新任職員の紹介 —



事務部長 黒岩 敏光

岡山医療センターのことは噂に聞いていましたが、私がこのような超急性期病院の事務部長を務まるかどうか、不安と緊張で胸が弾けんばかりの思いで着任しました黒岩と申します。

4月2日の幹部会議で東院長が昨年度は通常業務に加えて西棟のオープン、会長施設としての国立病院総合医学会開催、病院機能評価v6.0受審、金川病院の運営準備等のイベントがあり、職員の疲弊もピークに達しており、今年度は地に足を着けて足元を見つめ直すという訓示があったように

記憶しています。

当センターの理念が「人にやさしい病院」ということは、まず働いている職員が健康で活力があり帰属意識が高くなければ、患者さんや地域の人にやさしい病院にはなれないのではないのでしょうか。昨年度の多忙な日々から少しずつ開放され、心のエネルギーを充電しながら、仕事と家庭のバランスが取れるようなメリハリの効いた職場にしたいと考えています。

最後に微力ではありますが、歴代のOBが脈々と築きあげて来た岡山医療センターブランドを汚すことなく努力したいと考えていますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



薬剤科長 琢磨 律儀

4月1日付けで、市場薬剤科長の後任として、東徳島医療センターよりまいりました琢磨律儀です。

香川小児、東徳島医療、そして今回の異動で薬剤科長として3施設目になりますが、その間に、治験推進室長として本部に1年間籍を置いておりました(東京での勤務は2回目)が、中国地区での勤務は初めてです。

出身は香川県の三豊市です。香川県は「うどん県」と改名、とPRするなどどんが有名ですが、その魅力の一つにセルフで好みのトッピングを楽しむというのがあります、近所にはお金の支払いお釣りまでセルフという店もあり、いろいろなセルフ

サービスが楽しめます。

今年度はチーム医療の推進の一環として、服薬指導、医療安全など様々な形で取り組んできた薬剤師の病棟業務が評価され、薬剤師の病棟配置に対して、診療報酬上で「病棟薬剤業務実施加算」として認められました。このことは、我々薬剤師にとって画期的なことであり、このような形で、新たな業務を展開できる環境を与えられたチャンスを活かしていきたいと考えています。当院は入院医療を主体とした急性期医療を担う医療機関であり、薬剤科では当院の特徴を踏まえ適切な薬物療法のために薬剤師の専門性を発揮し、チーム医療のスタッフの一員として、医療の質の向上および医療安全の確保に積極的に関わってきたいと考えています。



臨床検査技師長 正木 修一

4月1日付にて山口宇部医療センターから榎本技師長の後任として赴任いたしました。

9年前に主任として当院で勤務し、当時は主に心電図や超音波などの生理検査を担当しておりました。当時と比べ病院全体の雰囲気も変わり、検査件数もかなり増加して、色々な面での変化に驚いております。しかし以前からの顔見知りの病院職員の方には「お帰りなさい」と歓迎していただき、感謝すると共に感激しております。

さて、当院の理念の「やさしい病院」を臨床検査科として目

指すには、部署間、部署内においてチーム医療の実践が必要であり、そのためには、検査科スタッフの個人レベルの知識、技術、接遇等の能力向上が必要不可欠となります。

その基礎となる医学的専門的知識、また経験の上に立つて得られる知識技術向上をめざし検査室全体のレベルアップを計りたいと思っております。

微力ではありますが、一生懸命努力する所存でございます。どうぞよろしくお願いいたします。



前任地、山口宇部医療センターから周防灘を望む風景



理学療法士長 ^{ひろかわ} 廣川 ^{はるみ} 晴美

この度4月1日付で東広島医療センターから理学療法士長として転勤してきた廣川です。

3月に内示を受けた時には「まだ早起きの生活が続くんだ…」というのが一番の感想でした。というのも、3年前まで当院に在籍していた時も、東広島医療センターに在籍していた時も、今回も自宅のある尾道からJRとバスを利用して通勤しているからです。朝は日の出と共に、帰りは月と共にという生活を続けているわけですが、周りの人から「どれだけ自宅が好き

なの?」と言われながらもがんばって早起きしています。諸事情があって尾道から通勤しているわけですが、自宅でゆっくりするのは、私にとって精神的にも肉体的にも(?)必要なことで、通勤時間はいろいろなことを考えるのにとっても良い時間となっています。ただ、前回に比べ今回は出発時間が30分ほど早くなり、だんだんと「早起きがきついな」と感じることもあり、年齢をひしひしと感じています。ですから、バスの中でボーっとしているところを見かけてもそっとしておいてくださいね。通勤時間中に充電して頑張って仕事をしようと思っていますので、何卒よろしくお祈りします。

リソース Vol.11 ナース室 通信



皆さん。こんなことを
やってほしい!というリクエストを
お待ちしております!

平成23年11月より、9A病棟ヘリハビリ室ができました。脳卒中急性期の患者様は意識障害があったりモニター監視が必要であったりと、少なからずリスクを抱える中で廃用予防、ADL向上のため早期離床に取り組んでいかなければなりません。今までは1階のリハビリ室まで行くことができず、ベッドサイドでリハビリをされていた方々が、病棟内にリハビリ室があることで積極的に離床に取り組んでいくことができるようになりました。専属の理学療法士、作業療法士が配置されており、患者様の状態に応じたプログラムを組んでリハビリに臨めるようになっていきます。今後さらにチーム医療を充実させ、患者様に応じたリハビリテーション看護を提供していきたいと考えています。

脳卒中リハ認定看護師
副看護師長 鳥越 俊宏



臨床研究 推進室便り



最近、治験に協力して頂いている患者様から『テレビで治験に関する番組を見たよ』などの声をよく聞きます。以前よりも「治験」という言葉が身近になっているようで、私たち治験コーディネーターも嬉しく思っています。

さて、今回のお話は治験へ参加することによる患者様のメリットとデメリットについて簡単に説明します。

まず、メリットですが治験に参加することで現在の保険診療では受けることのできない最新の治療を受けることができます。ただし、効果や安全性を確かめるのが治験ですので、期待される効果が得られない可能性もあります。また、治験薬を服用している期間は血液検査やX線やCT等の画像診断に関する費用を患者様が負担しなくてもよくなります。

一方のデメリットについて、治験ではご来院頂く回数が通常の診療よりも多くなります。また、通常の診療よりも採血回数や採血量が増えることもあります。

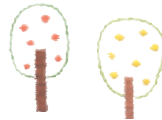
メリットとデメリットに関しては、これ以外にもあります。興味のある方は臨床研究推進室(治験管理室)までお問い合わせください。

臨床研究推進室(治験管理室)

TEL:086-294-9519(平日のみ)

その他、当院実施中の治験参加に関する問い合わせも受付しています

新室長就任の御挨拶



地域医療連携室長 利根 淳仁

平素より地域医療連携に際して格別のご高配を賜り、心より感謝申し上げます。

この度、大森 信彦 前地域医療連携室長（現 金川病院院長）の後任として、4月に室長に就任いたしました利根 淳仁（糖尿病・代謝内科）と申します。地域の医療機関様ならびに患者様のニーズに即した「切れ目のない医療連携」のお手伝いができるようスタッフ一同、一生懸命頑張っておりますので、今後とも御指導、御鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。



地域医療連携室スタッフ

地域医療連携室について



地域医療連携係長 三宅 博之

地域で診療されている先生方に、当院をより身近な存在としてご利用していただき、かつ先生方と当院医療スタッフとの協力の下、患者様に継続した医療を提供していくことを目的として、当院の地域医療連携室は平成12年に発足しました。その後も、順次業務の整理・拡大を行いつつ、平成21年からは医師、看護師（病床管理・退院調整・前方）、医療ソーシャルワーカーと事務職員を含めた多職種からなる体制となり、現在に至っています。

このたび、平成23年4月より室長として糖尿病・代謝内科の利根先生を迎え、また約半数のスタッフがフレッシュな顔ぶれとなって新たなスタートをきることとなりましたので、当室の活動内容について院内外の皆様にあらためて広くお知らせするとともに、この場をお借りしてスタッフのご紹介をさせていただきますと思います。

当室の主な業務としては 1) 地域の医療機関様からのご紹介の窓口となる前方連携業務 2) 入院患者様の退院調整を行う後方連携業務3) 紹介受入や転院の調整、在宅への移行支援をスムーズに行うための院内連携業務 この三つが大きな柱となります。当院においては、前方・後方連携のスタッフが同一室内に配置されているため、より緊密な情報の共有が可能となり、またそれぞれの業務の中心的役割を看護師が担うことによって「看護」の視点から患者様の全体像を把握することができるという特徴があります。もちろん当室にはそれぞれの業務に習熟した多職種のスタッフがいることは前記のとおりで、全員のチームワークで利根室長の言葉のように「切れ目のない医療連携」を実践すべく日々活動しています。

地域医療連携室の主な業務

1) 前方連携業務

- 地域医療機関からの紹介受付
- 新入院患者の病床管理
- 地域医療機関との情報交換、問合せ対応
- 開放病床の運営

2) 後方連携業務

- 地域医療機関、ケアマネ、訪問看護師等との連絡調整
- 院外スタッフとの退院前カンファレンス
- 地域医療連携パスの運用

3) 院内連携業務

- 定期的な病棟ラウンド、キーマン（退院支援担当看護師）ミーティング等の実施
- 社会福祉サービスに関する情報提供

地域医療連携室のスタッフ

地域医療連携室長	医師（糖尿病・代謝内科）	1名
副地域医療連携室長	看護師（病床管理看護師長）	1名
室員 【後方連携】	看護師（退院調整）	2名
	医療ソーシャルワーカー	3名
【前方連携】	看護師	1名
	事務職員	3名
	事務職員（経営企画室長）	1名
	事務職員（地域医療連携係長）	1名



Column

こころが 喜ぶログ

フリーアナウンサー
遠藤寛子



PROFILE 平成5年、山陽放送株式会社入社。在局中は夕方ローカルワイドニュース「山陽TVイブニングニュース」や県政・市政などのテレビ番組、スポーツ番組のリポートなどを担当。また、ラジオではお昼のワイド番組をはじめ、数多くの番組を手がける。平成12年に同社を退社後、フリーとして活動中。現在は、山陽放送テレビ・ラジオで朝の定時ニュース担当。またイベントや式典、ウエディングなど、様々なシーンでの司会進行でも活動を続ける他、マナー研修の講師も務める。

5月12日病院の日・看護の日によせて～“髪が紡いだ命”より

この「喜ぶログ」の原稿依頼をいただいた4月、あるドキュメンタリー番組と出会いました。【メッセージ】という、その番組でとあげられていたのは、岡山医療センター附属の岡山看護助産学校で学ぶ看護学生さんたちの姿でした。日々の学びで「痛みや苦しみを抱えた患者の心に真に寄り添うとはどういうことか」を懸命に考え、彼女たちは一つの行動をおこします。それは抗がん剤の投与により髪をなくした女性患者さんに、自分たちの髪をカットして作られたウィッグを贈る「ヘアドネーション」という活動でした。贈られたウィッグをつけた患者さんは「昔の自分が戻ってきた…」とその喜びを学生たちに伝えます。学生さんたちはそんな患者さんの姿を目の当たりにして勇気づけられ、それぞれ看

護師としての大きな一歩を歩みだしました。

痛みは体だけでなく心でも感じるもの。心の痛みが少しでも和らげば体の痛みも少なくなると思います。患者の立場からすれば「患者の心に寄り添いたい」と思ったださる、そのお気持ちこそがとて有り難いのです。これから看護師を目指す皆さんにはこれからどんな時もこの看護の精神を大切にしていいただければ嬉しいです。

番組では最後に女性患者さんが看護学生の皆さんにあててこう結んでいました。「自分たちが思う以上に皆さんは人を救っている。患者のために何ができるのかを考えてくださるそのことが私たちにとって大きな救いなのです。」

看護助産学校 通信 Vol.9

新年度が スタートしました!

看護学科 教員 川上 佐代

例年よりも遅咲きだった桜の花も、数日の温かい陽気に誘われるように満開となった4月10日に、看護学科第14期生127名と助産学科第2期生20名の入学式が挙行されました。

前日の出校式から不安と緊張の面持ちだった新入生の方々でしたが、深く穏やかなお声の東良平新学校長先生(右写真)からの心温まる式辞は、新入生だけではなく、在校生の気持ちも和らげていただきました。また来賓の方からのご祝辞、上級生からの歓迎の言葉が詠みあげられ、最後に出席者全員で校歌を斉唱し、式典もとどこおりなく終えることができました。

翌日から本格的に始まる学校生活に向けて、新入生全員がよいスタートをきれたことと思います。これも2年生を中心に、入寮のお手伝い、入学式の設営など在校生皆で協力し合い、準備が整えられたおかげだと思えます。在校生の皆様ありがとうございました。



奨学金が授与されました(平成24年4月28日)

また4月2日、9日には学校職員も新しいメンバーを迎え、スタートしました。今年も学校全体が笑顔で明るい雰囲気になれながら、総勢391名の岡山看護助産学校の未来への希望あふれる学生たちを教職員全員で支援していきたいと思えます。



東新学校長から式辞をいただきました

本学校の新人です どうぞよろしくお祈いします!

- 当院中央手術室から、育児休暇を経て、教員となりました田中由子です。学生の皆さんと共に成長できるように頑張ります。
- 賀茂精神医療センターより参りました、後藤尚子です。戸惑いだけですが、新たな気持ちで学生の皆さんと共に学んでいこうと考えています。
- 呉医療センターから参りました、畑中美保です。教員一年目として、学生の皆さんと共に学び、成長していきたいと思えます。
- 専任実習指導者の藤井宣匡です。昨年度までは当院5A病棟に勤務していました。学生の皆さんにとって、実習ができるよう、自分自身も勉強していきます。



院内活動案内

TOPICS!



地域医療
研修室

医療者のための
セミナー・講演会 (6・7月)



会場: 当院西棟8階大研修室
時間: 19:30~20:30

日程	種別	演者
平成24年6月19日(火)	第2回地域医療研修セミナー	胃拡大内視鏡診断の最前線 ~生検診断なしに胃癌がわかるの?~ 消化器科医長 山下 晴弘
平成24年7月17日(火)	第3回地域医療研修セミナー	(演題未定) 神経内科医長 真邊 泰宏



市民公開講座

どなたでも
参加できます



- 会場: 岡山国際交流センター
- 日時: 平成24年7月14日(土) 10:00~12:00
- 予約不要、入場無料、先着200名様

『乳がんから命を守る知恵』

- 第1部「乳がんの最新医療と予防法」 講師 当院外科医師 秋山 一郎
- 第2部「形成外科とは一乳がん治療との関わり」 講師 当院形成外科医師 高田 温行
- 司会 当院乳腺甲状腺外科医長 臼井 由行



独立行政法人国立病院機構 岡山医療センター附属 岡山看護助産学校

OPEN SCHOOL 2012

お申し込み・お問い合わせ方法

電話・FAX・メールでお申し込み下さい
電話:086-294-9292
FAX:086-294-9552
E-mail:n-school@okayama3.hosp.go.jp



	実施日	お申し込み受付期間
2回目	7月21日(土)	7月19日(木)
3回目	9月15日(土)	9月13日(木)
4回目	11月10日(土)	11月8日(木)

電話・メールでのお申し込みの場合は下記の内容をご連絡下さい

- ①参加者氏名・年齢・性別・連絡先
- ②参加希望日
- ③公開講座の参加希望の有無

※電話の場合は8:30~17:15までの時間帯でご連絡下さい。
お申し込み受付時間を過ぎましても随時受付可能です。
当日参加も受け付けております。

会場: 独立行政法人国立病院機構
岡山医療センター附属 岡山看護助産学校

オープンスクールの内容

- ①学校紹介
- ②公開講座
- ③看護(助産)技術体験コーナー
- ④個別進路相談
- ⑤在校生との交流会
- ⑥学校見学・学生寮見学・病院見学
- ⑦展示コーナー
(ユニホーム、教材模型、テキスト等)

※軽食も準備して、皆様のお越しをお待ちしています。

看護職員募集中
常勤看護師・非常勤看護師 随時受付中
まずは、お電話ください
登壇おかけを働けるという方もご相談ください

私たちと一緒に
働きましょう!

ご応募や
お問い合わせ
のお電話に
どうぞ

お問い合わせ 人事課 秋田
独立行政法人 国立病院機構
岡山医療センター
TEL:086-294-9911
〒701-1192 岡山市北区田益171-1

編集後記

平成24年4月より広報誌が・ジャーナルの編集長を務めさせていただくことになりました。本誌は当院の理念である“人にやさしい病院”の情報を医療関係者のみならず患者さま、地域の人たちにも伝えることを目的に平成18年に以前の別々に編集されていた2つの広報誌を合併させて創刊いたしました。医療関係者と一般のかた双方にわかりやすく、しかも読み応えのある紙面を追求してゆこうと思います。本誌を通して、医療センターの情報を提供するばかりだけでなく、健康増進、エチケットの達人・仕草美人にもなれるように紙面を工夫してゆく所存です。(臼井)